

国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業

【背景】

国立公園の利用拠点では、インバウンド対応や個人旅行など需要の変化への対応が遅れ、廃屋化した建物が自然の魅力を著しく妨げている状況が課題となっている。また国立公園は、圧倒的な自然環境と地域独自の文化資産が相まって形成されていることが外国人旅行者にとっても魅力的であるが、旅行者が体感できていない。

【事業内容】

①利用拠点計画策定

地域協議会等において利用拠点計画を作成し、計画に記載された事業を各主体が同時一体的に実施。
(事業運営、地域経営能力を有する人材の知見を入れながら利用拠点計画を策定)

②-1廃屋の撤去

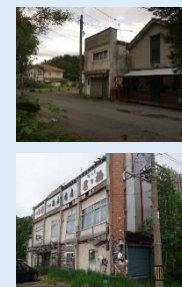
跡地における新たな民間事業者の導入を前提に、支障となっている廃屋等の撤去を進める。

②-2インバウンド機能向上

外国人利用者が立ち寄る利用拠点施設において、Wi-Fi、多言語サイン、トイレ洋式化を実施。

②-3文化的魅力の活用

公共施設、民間店舗等に、外国人にも魅力的な地域の文化資産への興味、誘導を意識したデザインを付加するなど、地域文化が体感できるまちなみに改善。



廃屋撤去跡地に新たな民間事業を導入 (イメージ)

【効果】

外国人旅行者の満足度向上、滞在時間の増加、リピーターの確保
国立公園の文化的な魅力、奥深さの外国人理解の促進



アイヌ文化の魅力を感じられる利用拠点のまちなみ (阿寒摩周国立公園)

【補助事業実施スキーム】

環境省 → 中間執行団体 (非営利法人) → 地方公共団体・民間事業者 (①は地方公共団体のみ)
(補助率: 定額) (補助率: 1 / 2)